

白謡会・秋の会番組

場所・平成二十八年十一月二十日(日)午前九時二十分始
日時・横浜能楽堂舞台(〇四五―二六三―三〇五〇)

主催・白謡会 (中白根本部、神奈川支部、沢渡支部、六日町支部
長崎支部、熊本支部)

協賛・横浜市医師会能楽部

連吟

雨月

シテ

山森 和夫

ワキ 越後貫隆

ツレ 菊田 博

地 三武 孝

他男性会員

三井寺

シテ

石井 静江

ワキ 小笠原久珠子

地 加藤千恵子

他女性会員

素謡

賀茂

ツレ 鈴木 紀子

シテ 鈴木 幸子

ワキ 中山 眞秀

地頭 平戸仁英、副地頭 一坂洋三

仕舞

雲林院クセ

河野 健三

實 盛クセ

金山 武志

通 盛キリ

佐藤 文孝

井筒

岩井さおり

放下僧小歌

近藤たね子

融

浅枝 秀隆

素謡

小袖曾我

母

川口 茂

五郎

岩井さおり

シテ 熊部 智美

地頭 北島大靖、副地頭 山口健次

江口

ツレ 高井 倫子

シテ 棟居 禮子

ワキ 石井佑卯子

地頭 青山圭佑、副地頭 関口 潔

仕舞

敦 盛クセ

三村 勉

俊成忠度

川口 茂

井筒 鈴木 紀子

葵上 永野由紀子

花 筐狂 薬師堂隆子

玉之段 熊部 智美

連吟

紅葉狩 シテ 二宮 恵磨 ワキ 森 庸一

地 三野仁子、高井倫子、熊部智美、糸井多倍子、堤美代子、永野由紀子

素器

卒都婆小町 シテ 森川 洋子 ワキ 三武 孝

ワキツレ 北島 大靖

地頭 舍川重隆、副地頭 青山圭佑

囃子入り連吟

薪之段 大鼓 橋本 鏡子 小鼓 近藤たね子

地謡 平戸仁英、三武孝(シテ)、青山圭佑(ツレ)、一坂洋三、姥澤賢

仕舞

難波 内田 節子

知章 初田 敏美

籠太鼓 三野 仁子

白楽天 小林 宏三

松 虫キリ 西尾まつ枝

船 橋 石井佑卯子

素器

法皇 松本 幸子

内侍 初田 敏美

局 松嶋 總子

大原御幸 シテ 尾崎 純子 ワキ 薬師堂隆子

ワキツレ 斉藤 三紀

地頭 深田晴美、副地頭 黒澤裕美、菅原秀子

舞囃子

吉野天人

一坂 洋三

太鼓 小島倅也 大鼓 西尾まつ枝 小鼓 龍田啓子 笛 中山真秀
地謡 平戸仁英、青山圭佑、関口潔、小林宏三、尾崎純子

屋島翔

加藤千恵子

大鼓 三木極威子 小鼓 黒澤裕美 笛 中山真秀
地謡 平戸仁英、青山圭佑、北島大靖、関口潔、姥澤賢

素囃

藤戸無本

シテ 中尾 操 ワキ 関口 潔

ワキツレ 関口 節子
地頭 渡邊長壽、副地頭 舍川重隆

舞囃子

野宮合掌留

龍田 啓子

大鼓 三木極威子 小鼓 相良邦子 笛 大久保直樹
地謡 黒澤裕美、深田晴美、橋本鏡子、松嶋總子、三野仁子

連吟

松風

シテ 佐川 武子 ツレ 菅原 秀子 ワキ 堤 美代子

地 石井静江、内田節子、齋藤千賀子、国廣静、初田敏美、竹川綾子

通小町

シテ 西澤 滋幸 ツレ 長谷川次八

地 越後貫隆、浅枝秀隆、三村勉、川口茂、金山武志、佐藤文孝

仕舞

清経クセ

北島 大靖

芭蕉キリ

国廣 静

三輪クセ

糸井多倍子

鳥追舟

橋本 鏡子

砧前

松嶋 總子

山 姥キリ

齊藤千賀子

船弁慶

大川 尚美

舞囃子(横浜医師会能楽部)

大鼓 三木極威子 小鼓 相良邦子 笛 大久保直樹
地謡 室矢正人、中島幹恵、小竹久美子、小原露子

素謡

實盛

シテ 姥澤賢 ワキ 山口 健次

ワキツレ 小林 宏三

地頭 関口 潔、副地頭 河野健三

附祝言

(終演午後五時五十分)

注① 素謡の地謡には、会員及び会員のご友人の参加は自由です。

注② 地謡の一部省略箇所、連吟の範囲、素謡参加者及び仕舞地謡の担当氏名は別途お知らせ致します。

注③ 昼食は、能楽堂二階の食堂で用意致します。また、楽屋での給茶は省略しますので、ペットボトルなど飲み物をご持参下さい。会終了後、野毛の「一の蔵」にて懇親会を催します。

備考

○仕舞地謡担当(正面席に向かって左からの着座順、右端が袴後見)

第一群(雲林院ほか) 石井佑卯子、関口潔、平戸仁英、青山圭佑、姥澤賢(袴)

第二群(敦盛ほか) 内田節子、渡邊長壽、平戸仁英、北島大靖、菊田博(袴)

第三群(難波ほか) 加藤千恵子、青山圭佑、平戸仁英、黒澤裕美、河野健三(袴)

第四群(清経ほか) 一坂洋三、舎川重隆、平戸仁英、深田晴美、小林宏三(袴)

○素謡省略箇所

賀茂 初同の上歌「石川や・を省き、下歌に跳ぶ」

小袖曾我 七前半を省く。九丁表の「劣るべし」より、シテ・五郎の「その上」に跳ぶ
江口 六丁裏の地の上歌を省く
卒都婆小町 ①三丁表の上歌を省く

②七丁裏ワキの「傷わしや」より、上歌まで省き、ロンギへ跳ぶ

大原御幸 ①二丁表、シテ・ツレの下歌と上歌を省き、「如何に大納言」へ跳ぶ

藤戸 ①四丁裏の上歌を省く
實盛 ①四丁表のワキ「げにげに翁の」から六丁裏の「思いをのみ」まで省き、シテの上歌へ跳ぶ
②九丁表上歌から十丁表の地留「語り申すべし」まで省き、十丁裏のシテの語へ跳ぶ

○連吟の範囲

雨月 ①三丁裏のシテ「祖父は秋の」より、六丁裏の地「雨の名残と思わん」まで
三井寺 ①六丁裏のシテ「面白の鐘の音や」より、九丁表の「眺めおりて明さん」まで
紅葉狩 ①三丁裏のワキ「あら不思議や」より七丁表クセ留の「気色かな」まで
松風 ①八丁表のワキ「御志」より、十一丁裏の地留「賜び給え」まで
通小町 ①六丁裏のシテ「思いもよらぬ」より、最後まで